

コンピュータ・リテラシー演習

テキスト 1

コンピュータ・リテラシー演習のねらいと 基礎的リテラシー

平成 16 年度前期、火曜日、3 講目

教官 浅川

asakawa@asa.hokkyodai.ac.jp

目次

第 1 講 コンピュータ・リテラシー演習のねらい.....	3
1. コンピュータで何が出来るか - ビデオによる紹介	3
概要.....	3
2. コンピュータの基礎的リテラシー	4
2-1. 立ち上げ操作 (start up).....	4
2-2. マウスの操作.....	4
2-2-1. マウスを動かしてみる。.....	4
2-2-2. 3 つの基本操作	4
クリック : マウスのボタンを一度だけ短く押す操作。.....	4
ドラッグ : マウスのボタンを押したまま引きずる操作。.....	5
ダブルクリック : マウスのボタンを二度短く続けて押す操作。.....	6
2-2-3. マウスの仕組み.....	7
2-3. Finder 上での諸操作.....	7
2-3-1. Finder の特徴.....	7
2-3-2. メニューバー.....	8
2-3-3. アップルメニュー	8
2-3-4. ファインダー上での様々な操作.....	8
1. フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM、フォルダの中身を見たいとき。:.....	8
2. ウィンドウを一番大きくしたいとき:.....	9
3. ウィンドウがじゃまだが、消したくないとき:.....	9
4. ウィンドウを閉じてしまいたいとき:.....	9
5. ウィンドウの位置を移動したいとき:.....	9
6. ウィンドウの大きさ、サイズを調整したいとき:.....	10
2-4. 終了操作 (shut down).....	10

第1講 コンピュータ・リテラシー演習のねらい

1. コンピュータで何が出来るか - ビデオによる紹介 概要

コンピュータはマルチメディア情報全般を扱える唯一の情報機器であるという特徴を持っています。即ち、コンピュータは文字、音声、画像、動画、ムービーといった多様なデジタル情報を扱うことができます。その機能の一部として、カセットレコーダー、OHP、VTR、ラジオ、テレビなどの情報機器の機能を含んでいます、さらにそれらを越えた統合的な機能を持っています。また、**インタラクティブなインタフェースを持ち、対話的な操作が可能です。**

これまで、情報教育というと、計算機としてのコンピュータそのものの学習や、BASIC などのコンピュータ言語の習得に力点が置かれてきました。しかし、文章作成を支援するワープロやグラフィックスを扱うペイント、ドローソフト、作曲、楽譜作成を支援するシークエンスソフト、ノートーションソフトなどの発達につれ、次第に、**コンピュータは人間の知的活動のための道具**であると認識されるようになってきました。そして、情報教育はコンピュータを使いこなす技術という意味での**コンピュータリテラシー教育**に変わってきているということが出来ます。さらに、1990年代のインターネットの爆発的な発展は、世界的なコンピュータネットワークという、より大きな可能性を秘めたシステムを顕在化させました。現在は、その利用法を模索している段階です。当然、コンピュータリテラシー教育はコンピュータネットワークリテラシーを含んで広がりつつあり、コンピュータネットワークはその教育への利用においてもいっそうの可能性を秘めています。

一般会社、公共機関への就職の際には、コンピュータを扱えることは必須の資質とされています。企業への就職活動の際に、昔はハガキで資料請求をしたものですが、今、その様なスタイルをとると、コンピュータを扱えない人間であると判断されて資料も送られてこない場合があります。インターネット経由で会社のホームページに接続して、そこで資料請求を行い、電子メールで就職担当者とやりとりをするというのが現状であるからです。

社会の中で最もコンピュータの利用が遅れているといわれる学校教育の現場でもコンピュータを扱える教員の必要性がどんどん増しています。大分県の採用試験では、Windows 上のワープロソフトの操作の実技試験が科せられ、北海道の採用試験においても、面接時にどの程度コンピュータを扱えるかが問われています。

コンピュータは人間のための汎用の道具です。コンピュータはワードプロセッサソフトを動かすとワープロに、ペイントソフトを動かすとグラフィックが画け、ゲームソフトを動かすとゲーム機になります。動かすソフトによって、様々な機能を発揮します。また、発達し続けているインターネットの利用も学習などに特に有効です。コンピュータを使いこなせるようになると、確実に新たな世界が広がります。

まず、ビデオを通して様々な大学での事例を紹介し、コンピュータの利用の方法の可能性を知ってもらうのが最初の段階です。

さらにこの講義では、様々なソフトを用いて、コンピュータを使ってどんなことができるのかを概観していきます。実習する内容は、ほんの初歩的なものですので、授業終了後も各自がさらにコンピュータの使い方を発展させていくことを期待します。

2. コンピュータの基礎的リテラシー

2-1. 立ち上げ操作 (start up)

a. 周辺機器の電源を入れる。

まず、ディスプレイ、プリンター等の周辺機器の電源を入れます。

b. スタートボタンを押す。

本体の前面、ディスプレイの右下にある**白いボタン**が電源ボタンです。

これを押します。これで本体の電源がはいります。

するとドミソの三和音が鳴り、Macintosh の絵が現れます。このとき笑顔のマークが出れば良いですが、それ以外では直ちに教官に連絡すること。

一番上段左にアップルマーク、上部にメニューバーが表示されるとマウスが使用でき用意が整います。

デスクトップが表示されて、使用できる状態にすることをコンピュータを**立ち上げる**といいます。



2-2. マウスの操作

マウスは、画面上のポインタを自由に動かすための装置です。Mac では、マウスを使っているいろいろな操作を行うので、下記の操作をまず修得します。マウスはキーボードの右側につながっている楕円形の装置です。

2-2-1. マウスを動かしてみる。

マウスを机の上に置いたまま、そのまま前後左右に引きずってみます。ディスプレイの上の矢印(ポインタ)がそれに従って動きます。いろいろ動かして下さい。

もし、マウスが机の端に来てもう動かせない状態になったら、マウスを机から持ち上げてもっと机の真ん中に持っていきます。その間矢印の位置は変わらないのがわかります。

ディスプレイの上のいろいろな点に矢印(ポインタ)の先端を持っていけるように、慣れて下さい。

2-2-2. 3つの基本操作

Mac のマウスにはボタンが1つあります。人差し指でボタンを押せるように上から手を重ねます。次に、以下の三つの操作を行ってみます。

クリック：マウスのボタンを一度だけ短く押す操作。

この操作は各種のアイコンを選択したり、書類中で位置決めをしたり、チェックしたりするときに使用します。

画面上にあるものを適当にクリックしてみましょう。

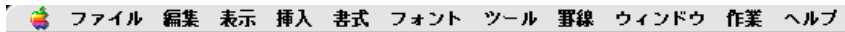
1. どれかの図形(アイコン)を、ねらって一度だけ、マウスを押して下さい。

クリックすると左のアイコンが右のようになり、色が反転します。これがそのアイコンを選



択した状態です。選択を解除する場合は、画面のなにもないところをクリックして下さい。

2. ウィンドウが複数開いている場合、白っぽいウィンドウの中をクリックすると、ウィンドウの枠がはっきりします。これは、そのウィンドウを選択した状態です。選択を解除する場合は、画面のそのウィンドウ以外のところをクリックして下さい。
3. 画面の上部にあるメニューバーのメニューの項目をクリックすると、メニューの中身が垂れ下がります(プルダウンメニュー)。これを消すには、画面のなにもないところをクリックして下さい。



4. クリックはさらに、書類ウィンドウの中での入力位置決めをしたり、
5. チェックボックスをチェックしたりするときに使用します。

ドラッグ：マウスのボタンを押したまま引きずる操作

この操作は各種のアイコンを移動したり、デスクトップのある範囲や文章の一部を選択したり、するときに使用します。

1. アイコンの移動。

ポインタで右下のゴミ箱を指して、マウスのボタンを押したままにするとアイコンが反転します。そのまま引きずって別な位置に移動させてみて下さい。これがドラッグです。

ゴミ箱は元の位置に戻しておいて下さい。

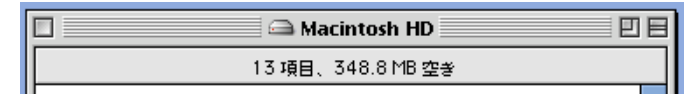
2. 複数アイコンの選択。

画面のなにもないところでドラッグを始めると四角が表示され、その中、線にふれるアイコンは反転します。これでまとめて複数のアイコンを選択したことになります。反転したアイコンの一つをドラッグすると選択したアイコン全部が移動します。



2. ウィンドウの移動。

開いているウィンドウの上部の枠をドラッグすることにより、そのウィンドウの位置を移動することができます。



ダブルクリック：マウスのボタンを二度短く続けて押す操作。

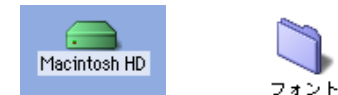
この操作はコンピュータに一定の応答をさせる操作です。その応答は 3 通りぐらいありますので、みなさんはそれぞれに適切な対応をしないとなりません。

1. ダブルクリックをすると、ウィンドウが開く。

アイコン(ハードディスクや、フォルダーのアイコン)をダブルクリックすると、中からウィンドウが現れて画面にに広がります。

例、画面の右上に下のような絵柄のアイコンがあります。

名前は異っていると思いますが、右の形のアイコンはフォルダーのアイコンで、左の絵を持つのはハードディスクのアイコンです。



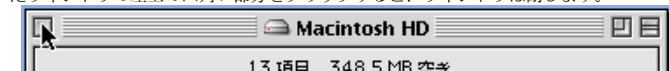
ハードディスクのアイコンをダブルクリックしてみます。

ハードディスクのアイコンが広がり、下例の様なウィンドウが開きましたか。



あまりクリックの間隔が長いとダブルクリックと認識されない事があります。その場合は、もっと早く 2 回クリックをしてみてください。

開いたウィンドウの左上の四角い部分をクリックすると、ウィンドウは閉じます。

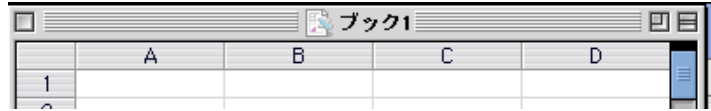


2. アイコン(プログラムや書類のアイコン)をダブルクリックする。

すると、中からウィンドウが現れて画面にに広がりますが、メニューバーの表示が下の図の左から右へと変化したのがわかります。これは、別なアプリケーションソフト (Microsoft Excel) が起動して、書類が開かれた状態になったのです。



この場合には、開いたウィンドウの左上の四角い部分をクリックすると、ウィンドウは閉じますが、動いているアプリケーションソフトは終了しないで残っています。



アプリケーションソフトを終了するには、メニューバーのファイルメニューをクリックし、その一番下の終了或いは Quit をクリックします。終了に伴いメニューバーがまた変化します。



3. 様々な処理の開始

ダブルクリックは、その他プログラム動作中ではボタンを動作させある処理を開始したりするときに使用します。

これらの操作により、文字入力以外の操作のほとんどをキーボードに触れることなく行えます。

2-2-3. マウスの仕組み

Macのマウスは光学マウスといいます。光を放射してその反射光を受けて、マウスの移動方向と、距離を判定します。また、マウスの中に球が入っていて、マウスを机の上で引きずると中の球が回転し、その回転の方向と距離を判断して、矢印が動く仕組みのマウスもあります。

2-3. Finder 上での諸操作

2-3-1. Finder の特徴

著鐙槩の初期画面は、ファインダー (Finder) と呼ばれるソフトが動いていて表示されています。この画面をデスクトップといいます。それは、Mac では、その画面に机を実現するというコンセプトに基づいています。

最初にあらわれる画面はデスクトップ(机の上)です。そこにはいろいろな物が置けます。書類、書類入れ(フォルダといいます。)、ゴミ箱もあります。ハードディスクも自由な名前を付けられて、デスクトップに存在します。一般的にそれらの中身は自由に移動できます。ただし、OS と呼ばれる機能を実現するファイル(システムフォルダの中のファイル)は勝手に移動させたり、捨てる動作がおかしくなります。

2-3-2. メニューバー

メニューバーと呼ばれるメニューを示す領域は、その時に動作しているアプリケーションプログラムによって内容が異なります。それをクリックするとプルダウンメニューという細かなメニューが下に垂れ下がります。そのメニューを操作して動作をさせます。

以下は、Finder でのメニューバーのメニューです。



メニューバーの右端には、現在操作対象となっているアプリケーションの名前(下の例では Finder)が表示されています。その他、仮名漢字変換システムの表示、時計などがあります。



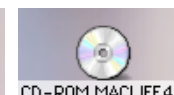
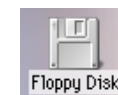
2-3-3. アップルメニュー

左端のアップルマーク(アップルメニュー)をクリックすると、よく使うプログラム、書類などが表示され、それらをクリックすることによってすぐ起動できるようになっています。



2-3-4. ファインダー上での様々な操作

1. フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM、フォルダの中身を見たいとき。:
フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM、フォルダのアイコンをクリックします。



ウィンドウが開いて中が見えます。

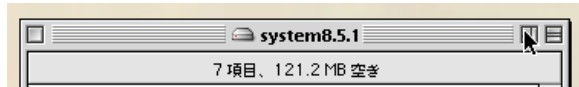
フロッピーディスク、CD-ROMのアイコンはそれらを挿入したときにFinder上に現れます。

OS9では便利な方法があります。フォルダ等の上でダブルクリックしてそのまま待っていると、ウィンドウが開き、さらにその中のフォルダにポインタを持っていくとその中身が開きます。

2. ウィンドウを一番大きくしたいとき:

ウィンドウの右上の四角いマークをクリックします。

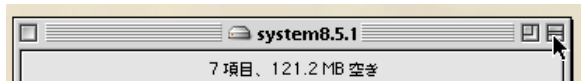
ウィンドウを最大にしたいとき、適切な大きさにしたいとき、下図のマークをクリックします。



もう一度クリックするとウィンドウは元の大きさに戻ります。やってみましょう。

3. ウィンドウがじゃまだが、消したくないとき:

ウィンドウの右上の角の横の二重線の入ったマークをクリックします。



するとウィンドウが、タイトルバーを残して閉じてしまいます。



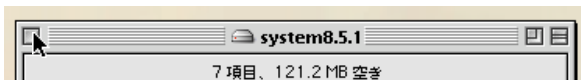
もう一度クリックするとウィンドウは元の大きさに戻ります。やってみましょう。

これは、たくさんウィンドウが開いてじゃまだが閉じたくはない場合によく使います。

4. ウィンドウを閉じてしまいたいとき:

ウィンドウの左上の角の四角いマークをクリックすると、ウィンドウが閉じます。

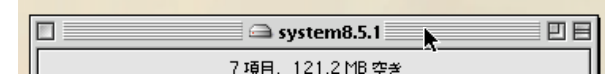
文書等が保存されていないときは保存用のメニューが出ます。



あるソフトで作業中のウィンドウを閉じたからといって、そのソフトが終了したわけではありません。ソフトの終了は必ず、ファイルメニューの終了を選択しておこないます。

5. ウィンドウの位置を移動したいとき:

ウィンドウの上部のタイトルバーをドラッグすると、ウィンドウの位置を移動が出来ます。



6. ウィンドウの大きさ、サイズを調整したいとき:

ウィンドウの右下の角をドラッグすることによりサイズ調整ができます。



2-4. 終了操作 (shut down)

終了操作を行わずに単に電源を切るとトラブルの原因となるので絶対してはいけません。

a. デスクトップの背景をクリックしてから、メニューバーの特別メニューから「システム終了」を選択する。

b. リターンキーを押す。

システム終了のボタンがデフォルト(既に変更されている状態)になっていますので、終了するときにはリターンキーを押します。

b'. リターンキーを押す。

プログラムを動かしている途中に終了操作を行うと、開いている書類の保存についてのメニューが出ますので、保存を選択します。保存のボタンがデフォルトになっていますので、保存するときにはリターンキーを押します。後は自動的に終了処理が進み、本体の電源が落ちます。

c. 周辺機器の電源を切る。

その後、プリンター、ディスプレイ等の周辺機器の電源を切ります。

索引

Finder	7	マウス	4
アップルメニュー	8	メニューバー	8
クリック	4	終了	10
ダブルクリック	6	立ち上げ	4
ドラッグ	5	立ち上げ操作	4
ファイnder上での様々な操作	8		